

国立がん研究センター 第2回医学賞 (総長賞) 受賞して

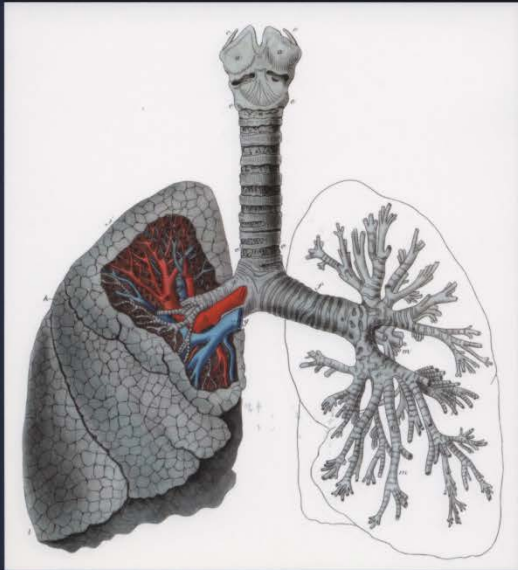
独立行政法人 国立がん研究センター中央病院
呼吸器腫瘍科呼吸器外科長

浅村 尚生

Asamura's Operative
Thoracic Surgery
浅村・呼吸器外科手術

国立がん研究センター中央病院 呼吸器腫瘍科呼吸器外科長

浅村 尚生
著



金原出版株式会社

受賞対象：

“浅村・呼吸器外科手術
Asamura's Operative Thoracic
Surgery” の発刊

(2011年6月，金原出版，東京)

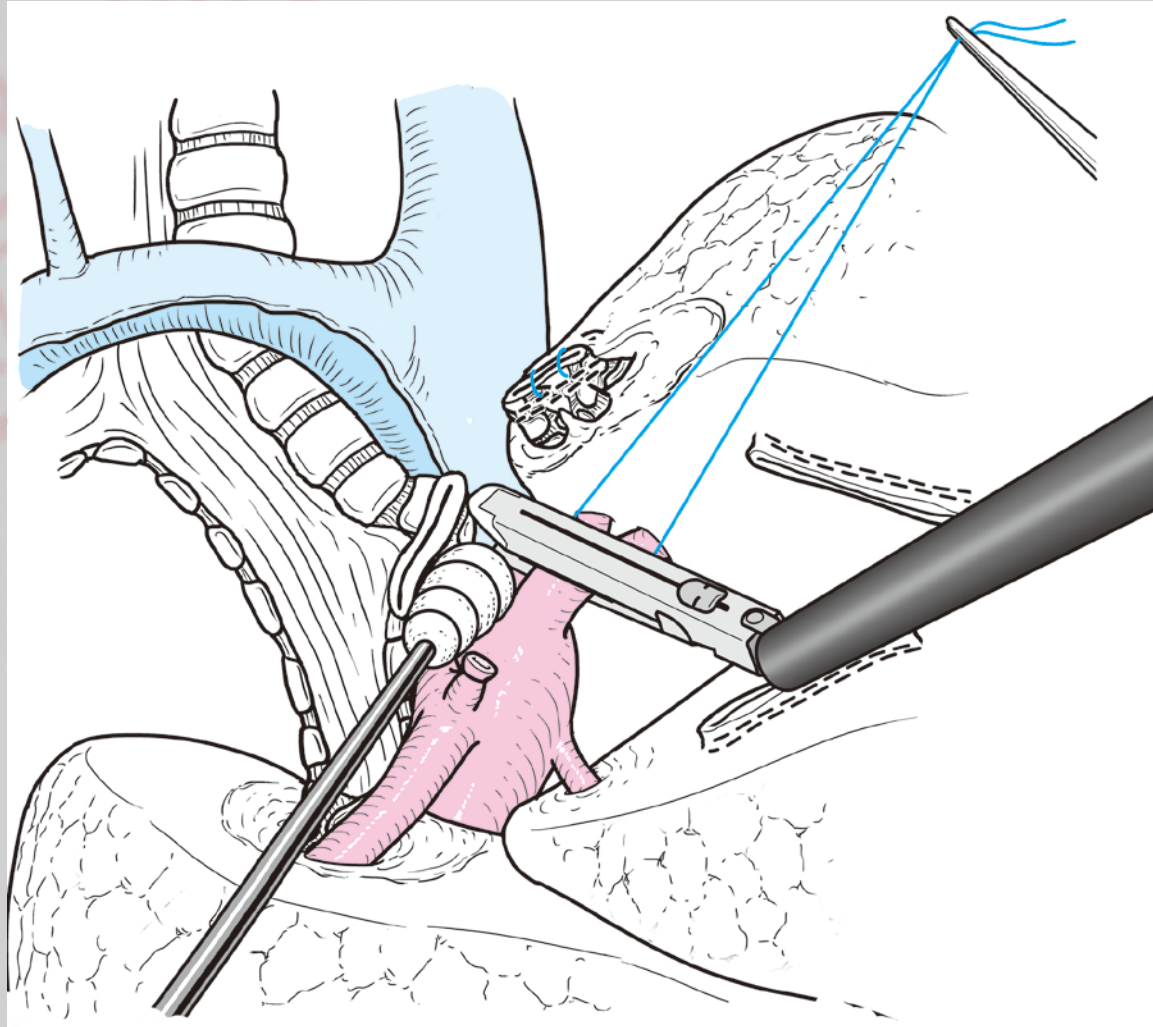
本書で伝えようとしたこと

- ✚ 外科技術にも，論理力，論証力の裏付けが必要
- ✚ 国際的に誇れる技術を目指す
- ✚ 外科医の仁義は，武士道のそれと同じである。



海外の外科医に手術技術を“伝える” (Mayo Clinic,
Deschamps部長とともに)

イラストは550枚を作成した。本書で最も苦勞した部分である。



現代の外科医の不断の修練は、明治の海軍軍人のそれと同じである！
(嘉山理事長の当センター外科系職員への督励事項であると思う)

「東郷大将連合艦隊解散の訓示」

「略

百発百中の一砲能（よく）百発一中の敵砲百門に対抗し得るを覚（さと）らば我等軍人は主として武力を形而上に求めざるべからず。

略

惟（おも）ふに武人の一生は連綿不断の戦争にして時の平戦に依り其責務に軽重あるの理（ことわり）無し。事有らば武力を発揮し、事無かれれば之を修養し、終始一貫其本分を尽さんのみ。

略

神明は唯（ただ）平素の鍛練に力（つと）め、戦はずして既に勝てる者に勝利の栄冠を授けると同時に一勝に満足して治平に安（やすん）ずる者より直（ただち）に之を奪ふ。

古人曰く勝て兜の緒を締めよ・・・と

明治三十八年十二月二十一日

連合艦隊司令長官 東郷 平八郎

ちなみに、築地の地は日本海軍揺籃の地であった（敷地内に残る海軍兵学寮址の碑）。

